



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (JSO)

No. 124

ホームページ25万ヒット

ホームページ25万ヒット！

カウンターを設置したのが2000年5月23日となっています。JSOのホームページは当初、一人のメンバーがこつこつと作り上げ、全国のミーティング案内サービスをはじめました。評議会／常任理事会構想が実現した1996年5月の常任理事会で承認され、以来常任理事会広報委員会の責任として発信したものです。第2回全国評議会で内容の説明が以下に行なわれました。

AA「アルコールクス・アノニマス」とは？

序文、12のステップ、12の伝統、伝統の長文

AAと連絡するために

JSOおよび各地のセントラルオフィス その住所、電話とFAX番号

全国のAAミーティング場案内

(地区単位、ミーティング場単位)

ミーティング名、開催曜日と時間、会場施設名、会場住所および英語ミーティング

基本的に管理するAAグループが明らかでないものを除く

AA書籍と出版物

簡単な紹介文を添えて、全書籍印刷物を掲載

今後の展開として、まずアメリカGSOWebとのリンクがあげられます。これは間もなく各国が協力してAAの世界的な情報網になる予定です。

この1997年の文章で予想した速度よりかなり速く、インターネットの世界は飛躍的な伸張を遂げています。このJSOホームページの創始者は残念ながら、今は空の上から見守ってくださっています。その後、意志を継いだ何人もメンバーの献身的な貢献で現在に至っています。

およそ7年間で25万ヒットということは、単純計算で一日あたり100件になるわけですから、今では一日にかなりの来訪者があると考えられます。

アルコールの問題で苦しんでいる人たちに何かの手助けができますよう情報提供作業を怠ることなく続けて行きたいと考えています。

AAの封筒を開けるの忘れた \ (・◇・;) /

「なにかポストに入ってたけどミーティング会場に持ってくるの忘れた。」とか…? 「今日は持って行かなくても誰もなんにも言わないし、まあいいか…」 「あっ、今月もまたAAの封筒を開けるの忘れた！」 毎月毎月オフィスから届くメンバーへのお知らせ、イベントの情報、献金がどのように使われているかの報告。サービスに関わった人ならだれでも経験があると思います。

AA Japan - アルコールクス・アノニマス(R)

1/1 ページ

日本語版の更新履歴 | 英語版の更新履歴 | 中国語版の更新履歴 | 韓国語版の更新履歴

English-speaking Meetings: Includes virtual maps and times

Alcoholics Anonymous® (of Japan)

アルコールクス・アノニマス® (無名のアルコール依存症者たち)

Alcoholics Anonymous®

アルコールクス・アノニマス®は、経験と力と希望を分かち合って共通の問題を解決し、ほかの人たちもアルコール依存症から回復できるように手助けしたいという共同の目的を有する。AAのメンバーになるためには必要なのはただ一つ、欲求をやめたという願いだけである。費用も無いし、料金を払う必要もない。私たちは自分たちの資金だけで運営している。AAとはどのような宗教、宗派、教義、組織、団体とも関係していない。また、どのような論争や派閥にも参加せず、支持も受取らない。私たちの本来の目的は、飲まないで生きていくことであり、ほかのアルコール依存症者も飲まない生き方を達成できるように手助けすることである。(AAグループの許可のもとに再録)

このホームページはAA出版部およびAA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO)の情報をもとに作成されています。JSOホームページ(ウェブ/サイト)の方針は、こちらを参照ください。 AA日本常任理事会・広報委員会

AAと連絡をとるために。

AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 03-3590-5377

■ 各地のAAサービスオフィス - 詳しくは、こちらをご覧ください。

“お酒を止めたい” AAを知らない方々に、理解し知って頂くために。

■ AAに初回は7-12の頁目 [AAのアルコール問題の頁目]

■ AAについての素朴な疑問

■ AA(アルコールクス・アノニマス)とは? - アノニシティについて-AA12のステップ-AA12の経緯

AAの活動を知って頂くために。

更新情報
2007/05/16 各AAニューズレター-日本AAニューズレター123番を追加しました。
9097/06/01 各地のAAイベント案内、16/07/01/01、16/07/01/01、16/07/01/01

- JSOコーナー
- AA出版部カタログ-新刊案内
- 各地のAAイベント案内
- AAニューズレター - 日本AAニューズレターメンバーシップサービス
- 各地のAAミーティング会場 - 随時更新しています。
- AAグループのための資料

Alcoholics Anonymous in the World - ニューヨークGSO所属のAAホームページです。

このページは自由にリンクしていただいて結構です。遠くまで連絡を頂く必要はありません。但し、トップページ以外のリンクは、必ずしも保証されません。このページへのお問い合わせは、受取専用アドレス help@aa-japan.org までどうぞ。遠慮はせずにお問い合わせください。但し、お返事できない場合がありますのでご了承ください。上記のメールアドレスは動に変更することがありますので、連絡の際に確認ください。(9/1)



<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>

2007/05/16
2007/05/16

5月16日、偶然に開いたホームページが250000番目だった！ハイヤーパワーでしょうか…。

社会の中で「まあいいか…」という気持ちになれなくて、酒に頼っていた毎日。飲んだらいつも「まあいいか…」自分が飲まなくなると「今の自分は、飲まないことで精いっぱい。飲んでいないから幸せです。感謝してます。…でも恋人ひとりもできないし、いい仕事も見つからない。一体全体どうなっているんだろう。」あげくのはてはAAなんか信じられない。なにも与えてくれない。…でも飲んでたあの頃の自分には戻りたくない。「誰もなんにも言ってくれないし、まあいいか…」

プログラムから外れてしまった人の話です。実は私もこうなっ

まい、結局飲んでしまいました。

ビッグブックにも書いてあるとおり、中途半端は、なんの役にもたなかったのです。その後やっと飲まなくなって1年か2年くらい経って、家族とも社会とも、何となくうまくいきかけてきた。いっちょまえの人間になったつもりで、新しい仲間もグループにつながってきて…自分の欠点を見つめ直すこともでき、「さあ、これから自分も仲間を助けよう!メッセージにも定期的に出かけよう!」迷惑をかけた人たちへの償いを早くやりたくて仕方なかった。先人から「あんたにははまだ早い。」と言われ、自分では「そんなことはないのに…」と。

あれから10年…常任理事会の方から「全国的なサービスフォーラムを関東甲信越で開催したいのですが。」と話をいただいたのが、昨年(2006年)春のことだったと思います。「AA日本のサービスとは何か?」このフォーラムの実行委員会の第1日目はスタートしました。

家族にも迷惑をかけ、親戚にも職場にも友達にも見放され、どう自分自身もいやになり、どうしていいか分からなくなった時、私たちは様々な方法でミーティング場までたどり着きました。みんなそこにミーティング場があったから、今生きているのです。お茶を飲みに行っている訳ではないのですが、そこには暖かい人たちと温かいコーヒーがありました。

ずっと後からわかることですが…誰かがミーティング場のカギを開けて、お湯を沸かし、イスを並べて、書籍等を用意して…新しい仲間が来ると、ミーティングは初めてかどうか尋ねたり。役割をもらって初めて、それが自分にできる最初のことだと理解しました。実はそこから人助けも始まっていたのです。

AAのシンボルに、丸の中に三角マークのがあります。このニューズレターの最初のページの左上にあるあれです。

その意味は? [回復]=個人のステップ。[一体性]=グループが守る伝統。[サービス]=AA全体のコンセプト(概念)だそうです。

「自分だけ回復すればいい。ミーティングの中だけで仲良しグループを作っていけば楽しいし…私はそれで十分。」果たしてそれでいいのでしょうか?…三角形のもう一辺が欠けているのでは?

役割が負担に思わなくなり、楽しくならないと一生飲まないでいることはつらいのです。自分が自分を助けられない人間が人を救うことはできません。自分が幸せにならないと他人をも幸せにはできないだろうと思います。サービスとは…ミーティング場でみんなで役割を始めることから始まります。

フォーラムのテーマは「あなたもできます、皿洗い」、サブテーマに「回復のお手伝い」としました。

全国サービスフォーラムは第1回の名古屋を皮切りに以後札幌、郡山、大阪、福岡、山口で開催されました。関東甲信越地域で開催されるこの第7回が最後となります。

最後のフォーラムなので「関東甲信越でしかできない、独自のものにしたい。」と…話し合いの結果、たどり着いたのが「なぜ、AAメンバーは増えないのか?」です。本当にアメリカ、カナダのサービス体系そのままでのいいのか?どこかで間違っていないのか?

以前はよく「アメリカではこうしてるから日本でもこうしよう…、昔はこうだったから今回もこれでヨシ。」という話を耳にしました。

私のグループはここ数年仕事を続けている人、家族もいる人、精神病院にも入院したこともない人、施設にもいない人たちがどんどん訪れてきています。あきらかに十数年前とは変わってきています。(ある意味)底が浅い人たちが増えてきているようです。

昔ながらのやり方ではなく、日本のAA自体もメンバーを増やすためには自分自身を(内部から)幸せにしないとイケないのではないかと考えました。

個人の回復同様、AAも急速には良くなってはいかないとは思いますが、われわれ委員会ができることはなにか?が、繰り返し話

し合われました。

「新しい人たちも参加できるフォーラムにしたい。」「みんなで作業ができれば。」という声が生まれ、AAのメンバー実数を知るために各グループ、各地区、各地域宛てにアンケートを実施することにしました。

日本の白地図に この県は何人? この町は何人? この曜日は何人? と視覚的に理解できる日本地図をみんなで作っていくワークショップを行うことになりました。現在も全国の仲間への協力を呼びかけ、アンケートの回収、分析をしています。

※「封筒を開けてない」グループ、地区、地域がありましたら是非ご協力ください。

実行委員会ではできるだけ現状に近い結果を得られたらと考えています。当日のフォーラムでは地図の作成作業と同時にアンケート結果を元にメンバーを増やすさまざまな方法を話し合っています。

※ 実行委員会は毎月第4日曜15:00から関東甲信越地域委員会と同じ会場で行われています。

興味あるメンバーは是非参加して下さい。新しい人は特に歓迎します。全国各地域では来年の評議員の選出にも苦勞されていると思います。

日本の現状はこうなんだ。今の何が良くないのか。われわれは何から変えられるのか? 「まだ苦しんでいるアルコールクにAAでの楽しく、幸せな生き方を知ってもらいたい!」

そんな思いを今回のフォーラムで伝えられたら、と思います。
第7回AA全国サービスフォーラム実行委員会委員長 西村

第7回 AA 全国サービスフォーラム

2007年

9月15日(土), 16日(日), 17日(祝)
国立女性教育会館(嵐山)

東武東上線武蔵嵐山駅から徒歩で15分
武蔵嵐山駅へは池袋駅から東武東上線急行で60分
小川町駅から東武東上線で7分

テーマ「あなたもできます、皿洗い」
サブテーマ「回復のお手伝い」

《スケジュール》

15日(土)	13:00オリエンテーション 17:00セッション1 (ワークショップ)
16日(日)	10:00セッション2 (ワークショップ) 13:00セッション3 (全体会議) 19:00セッション4 (ワークショップ)
17日(月)	10:00セッション5 (全体会議)

第12回AA日本全国評議会を終えて

中部北陸地域後期評議員 佐藤

昨年の11月に、「第12回全国評議会の全体会議の議長をお願いします。」との連絡をいただいた。私は企画の議長をやらせていただくことになっていたため、全体会議の議長はやらなくてもいい

のでは?など思っていたので、正直慌てました。それから、改めてサービスマニュアルや第11回の全国評議会の報告書、第12回の議案一覧を勉強させてもらった。本当は昨年、本施行になるはずのAA日本評議会憲章が仮施行になったまま、第12回に送られているので何としても、本施行になるようにまとめなくては…頭の痛くなる数ヶ月でした。

思えば、ソーバー1年の頃、AAのサービス活動に係わり始め、先行く仲間に「これは、どういう意味ですか?」「このことは、どう考えたらよいですか?」と質問してばかりいた(私の質問に答えてくれた仲間はすごく忍耐力があると思います。)それから、地区委員会で、書記・委員長をやらせていただき、地域委員会で書記・委員長をやらせていただき、今度は地域の評議員をやらせていただくことになった。去年、初めての評議会の雰囲気には圧倒された。後期評議員の方が議長をやっているのを見て「嫌だな。緊張するから。」など言っておられて、この人にもこんな所があるんだと嬉しくなった。議長になったどの評議員さんも精一杯やられているのを見て深く感銘を受けたのを覚えています。実際、評議会が近づくと不安が出てきて、私に出来るだろうかと心配になった。地域の中で何人かのメンバーが「もうすぐ評議会だね。頑張って」と声をかけてくれたのがとても嬉しかった。でも、やはり当日は緊張して、朝一番の新幹線で品川へ。

今年は、評議会自体が21時までで会議を終わらせるという時間に追われたスケジュールの中で、一日目は、議事ルールが良く分からないまま何とか終わり、それから打ち合わせ等を終わるとすでに23時になっていた。2日目分科会の議長もやらせていただいていたので、気が抜けなかったが、委員会のメンバーのご協力で何とか終わり、また、打ち合わせの後、全体会議へ。熱い議論が繰り広げられる中、意見も聞き、時間も気になりと本当に不慣れた議長で、構成メンバーの皆様にご迷惑をおかけしたと思います。3日目、持ち越し議題があり、早く進行させなければと言う想いで、再び、時間と議論との戦いの中、やっと終了間際に全部の議題が終わった。本当に疲れ果ててしまい、「全体会議の議長と分科会の議長の兼任は大変だから来年度からは、分けて欲しい。」と提案させていただきました。

AAの全体のことを決定していくのは、非常に責任あるし大変な経験でした。でも、この貴重な経験をここに集まってくる評議員さんに平等にしてもらいたいとも思いました。評議会の議長という役割をいただいて、大変な思いやこんな不慣れた議長をよく受け入れていただけたなど感謝の気持ちと一緒に議長をやられたメンバーに対する友情の気持ちを一度に味わうことができました。

第12回の評議会構成メンバーの皆様、そして、いつも評議会を支えて下さるスタッフの皆様ありがとうございました。この経験を次の仲間に伝えることができますように、そして、今後の生き方にいかせるように努力していきたいと思えます。

地域の分かち合い

中四国地域より

オーストラリアでもらった贈り物

2年前の夏、夫に誘われてオーストラリアへ行きました。AOSMにオブザーバーとして参加するためでしたが、私は実に軽い気持ちで、「観光ができればいいや」ぐらいにしか思っていませんでした。

早朝にブリスベン国際空港に到着すると、地元の仲間達が早々

と車で迎えに来てくれていました。その中の一人、私達をゴールドコーストの会場まで連れて行ってくれる仲間と握手を交わしたのですが、彼はオーストラリアの空と同じくらいに澄んだ青い目をしていて、私はしばし見とれてしまいました。彼は車の上に積んであるサーフボードを指差して、ニコニコと笑いかけて。「今日あたりサーフィンに行くんですか?」と聞いたかったのですが、英語が浮かばなくて、私も一緒にニコニコしていました。

会場の受付では、真っ白なヒゲをたくわえたオールドタイマーがゆったりと座って、私達を笑顔で迎えてくれました。私にも分かるようにゆっくりとした英語で「15、6年前に日本でAOSMが行われた時に、私も行ったんですよ」と教えてくれました。

次に、アメリカはサンフランシスコから来た男性メンバーを紹介されました。「今度こそ、英語で挨拶するのだ!」と意気込んで握手を求めたら、「ああ!日本からですか!それはそれは、ようこそおいでくださいました!」と、日本人よりも流暢かつ礼儀正しい日本語で対応されてしまい、拍子抜けするやら、驚くやらでした。彼こそが同時通訳者としてやって来たダグさんだったのです。おかげで、英語の分からない私でもサーブミーティングの一部始終を聞くことが出来ました。言葉はさておき、雰囲気だけでも感じられれば思っていたので本当にうれしかったです。ダグさんの並々ならぬ才能とご尽力に本当に感謝しています。

ところで、AOSM評議員の顔ぶれを見渡して、おや?と思ったことがあります。

私は、タイからはタイ人の、カンボジアからはカンボジア人のメンバーが来るものと思い込んでいました。しかし日本を除いては、みな欧米人だったのです(中国・韓国は欠席)。「ここは、アジア・オセアニア地域のサーブミーティングじゃないの?」私は釈然としませんでした。

でもミーティングが進むにつれ、メンバーの熱意が私の中の違和感を拭い去っていききました。人が集まる以上、政府に届出をしないとミーティングが開けない国、文献の翻訳が進んでいない国、いずれは母国へ帰るかもしれないメンバーたち…言葉や文化の壁を超えても、個人の事情をさしおいても彼らがメッセージを運び続けるのは、ただただ、まだ苦しんでいるアルコール依存症を助けたいという願いからだけなのでした。

日本で生まれて、日本語を母国語とする私たちによってサービスを組織していること、そしてAAの文献が母国語で読めることがどんなに恵まれているか、この場に足を運んで、私は初めて知ったのです。そして日本のサービスも、彼らのようなメンバーや、日本人のオールドタイマーがいてくれたからこそ、ここまで成長できたということも。

今年、あるAAの集まりに参加した時に、誰かの言葉が私の耳にすどく刺さってきました。「日本のことだけでもせいっぱいなのに、なんでわざわざ日本でAOSMをやらなくちゃいけないの。そんな余裕はないわよ。」

次の瞬間、私の心の中に、オーストラリアでの数日間の出来事と仲間の顔が思い出されました。言葉も通じない私を、日本から来たというだけで、目を大きく見開いて驚いて歓迎してくれたこと、千代紙で作った折り鶴をプレゼントしたら大喜びしてハグをしてくれたこと、空港から会場へ車で連れて行ってもらった途中に、わざわざ遠回りして、ゴールドコーストの海を見せてくれた仲間のこと、そして、AOSMミーティングで感じた「まだ見ぬアルコール依存症」への思いの強さ。

グループ、地区、地域、国と、どんなに共同体が大きくなると、最後は人と人なんだな、と感じさせてくれたのが、AOSMミーティングでした。AAメンバーなら、外国人同士でも人情は通じるはず。12のステップと12の伝統も、見返りを求めず、仲間の理解と信頼とともに実践される時に、初めて生かされるのでしょう。

私を助けてくれたメンバーも、きっと個人的な悩みや課題を抱えていたでしょう。私も感情に振り回されることはしょっちゅうあるし、どん底も無いけど余裕ありません。でも、目の前の苦しんでいる人間を見捨てることはしないつもりです。私は見捨てられなかったから、ここに生きて居られるのですから。

今夏のAOSMで、あの時のメンバーの方々と再会できるのを、とても楽しみにしています。少しは英語が聞き取れるようになっていたらいいのですが。

余談ですが、オーストラリア滞在中に「AAオーストラリア」のTVコマーシャルを偶然見ました。まるで映画のワンシーンかミュージックビデオの一コマのような、しゃれた映像でした。日本でもいつの日か、そんな「サービス」を見られたらいいですね。

広島スマイルグループ 石上

サービスの大切さを伝えて行くこと

回復、サービス、一体性、このAAメンバーにとってかけがえのないレガシーの中で、どうしてサービスに於いては、自分にはまだ早いとか、関係ないか思っていたんだろうね。日々繰り返されるミーティングには毎日のように出かけて、経験の分かち合いができていくのに、地区、地域のサービスってことになると何だかんだと理由を言っただけで逃げていましたね。

ホームグループの中では何らかの係を続けられているのに、結局は自分のエゴでもって自分の普段の生活を犠牲にするのが嫌だったんです。無償で受けた愛を無償で与える作業(AAの原理の一つ)が、AAに関わり始めたころの自分には、まだ自分の腹に落ちてなかったことは勿論ですが、サービスに関わることの大切さが解るようになったのは、最近のことのように感じるからです。

ですから、新しい仲間へサービスの大切さをおしつけがましく要求するのも無理な話というものです。しかし、このサービスの大切さを伝えていかなければ、AAの共同体は成長しません。このサービスの輪番制こそが大切なことだと痛感します。わたしはAAを本業とは考えてはおりません。が、飽くまで生きる為には必ず要るものと捉えています。実際、私の普段は建設会社に勤めるサラリーマンで(これは飯を喰う為の術として)働かせていただいております。

AAを専従の職として働けるメンバーは、ごく限られたわずかにばかりの人々と思いますが、その方々の活動があるからこそ、私のようなサラリーマンでも私なりのでき得限りのサービスの活動ができるのだなあと感じています。

パソコンも献金の管理もできないし、書籍の管理、会場準備、書類の作成、全てメンバー任せの私ですが、地区内においては充実したサービス活動をさせていただいております。一年を通して地区内で起こすイベントも、お陰で順調に熟すことができているのではないかと思います。私は地区委員会に於いても男雛様のように議長席に座って議事進行をするだけのことで、各グループの代議員、オブザーバーとして出席してくれる仲間たちの心温かい協力に感謝しています。

AA山口地区委員長 シン

ミニ献金フォーラム

AAが日本に入ってからしばらくの間、献金とハイヤーパワーのことはメッセージでは話さない方がよい、という時

代があった。しかしAAがAAであるためには、自分たちの献金だけで自立するという伝統は欠かせない。

伝統7では、“すべてのAAグループは、外部からの寄付を辞退して、完全に自立すべきである。”と言っている。AAが世界的に継続して発展してきた理由の一つは、金銭の面から見るとこの伝統につきると思う。

先日、中部北陸地域のミニ献金フォーラムに参加する機会があった。私もスピーカーとして話してもらったが、フォーラムを後にして、私の胸に去来したのは、私自身の固有の経験であった。

AAを知ったけれどスリッパを繰り返していた3年間あまり意味も分からずに10円とか時には100円とか献金していた。43才から心底AAのプログラムをやってみようと思っただけで、同じような金額を献金していたが、時給500円のパート仕事をするようになってから、飲んでいたところの借金が返せる範囲だったので、その借金を返済することに集中するようになった。

AA大好き人間になり、献金を奮発する時代が続いたが、結婚し、子供ができ、家庭の経済的維持に収入は使われていった。

60才から東京を離れ、ほぼ10年間、地域やグループに献金してきたが、全体サービスに対して積極的には献金していなかった。

確かにAAは外部に依存しない。しかし私はその間他のAAメンバーに依存していたことになる。10年間、きちんと日本のAAはサービス活動が続けられていたのだから。その後、常任理事になり、それも財務担当理事になって、自分なりに熱心に献金した1年間であった。それも今年になってすこし緩んでしまった。

BOX 9 1 6に書くような内容になってしまったが、いつものタッチで献金について書く気になれず、締め切りが過ぎて悩んだ末、献金に対する心の内を書いてみた。

12ステップはアルコールクの回復を促すプログラムであり、12の伝統はアルコールク同士で自立した人間回復の実践を目指すプログラムであれば、その7番目の伝統を、私は疎かにできないと、心底、今、思う。

この原稿を書くさいに、伝統7の全文を読んでみた。AAが葛藤を繰り返しながらこの自立の伝統を選択した歴史が読み取れ、文章全体が自分の心の甘さを自分に問い返してきた。

この献金フォーラムは献金が足りないからもっと献金してほしい、という呼びかけと言うよりは、献金の使い方に対する提言や新しく来た人たちへの献金の意味することへの理解を深めてもらうことが主たる趣旨である。そして何故ミニかという、様々な集会の小コーナーで時間を設けて、献金について気軽に話し合う機会を作ってほしいということでもある。

そして、これからミニであれ、少し大型の献金フォーラムであれ、そこに出席する私はあの泥濘の10年から奇跡の救いを与えられ、そしてますます自立へ向けて回復していこうという自分の内面との対話を試みていける機会でありたいと思う。この文章を書いていてそう考えるようになった。(林)